



旧バージョンからの Cisco IMC Supervisor のアップグレード

この章は、次の内容で構成されています。

- [Cisco IMC Supervisor バージョン 2.2 へのアップグレード, 1 ページ](#)
- [Cisco IMC Supervisor のアップグレード, 1 ページ](#)

Cisco IMC Supervisor バージョン 2.2 へのアップグレード

Cisco IMC Supervisor 2.2 は、アプライアンスとして使用できます。[Shell Admin] メニューの [Apply Patch] オプションを使用して、2.1 バージョンから 2.2 にアップグレードできます。アップグレードについては、「[Cisco IMC Supervisor のアップグレード, \(1 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco IMC Supervisor のバージョン 2.0 からバージョン 2.2 へはアップグレードできません。2.1 以前のバージョンについては、まず 2.1 に移行してから、2.2 にアップグレードする必要があります。リリース 2.1 への移行の詳細については、『[Cisco IMC Supervisor Release Notes, Release 2.1](#)』を参照してください。



重要

zip 3.x を CentOS 6.x で使用して Cisco IMC Supervisor 2.2 OVF と VHD の zip ファイルが作成されます。Linux システムの場合は、unzip 6.x 以降または最新バージョンの 7-Zip アーカイブツールを使用して zip ファイルを抽出できます。Windows システムの場合、Windows 10 および Windows Server 2012 R2 では Windows Explorer のネイティブの Extract All、または 7-Zip や WinRAR などの最新バージョンのアーカイブツールを使用して zip ファイルを抽出できます。

Cisco IMC Supervisor のアップグレード

Cisco IMC Supervisor でサポートされているアップグレードパスは、次のとおりです。

- リリース 2.1 からリリース 2.2 へ
- リリース 2.1.x.x からリリース 2.2 へ
- リリース 2.0.x.x からリリース 2.1 を経てリリース 2.2 へ

次の手順を実行して、Cisco IMC Supervisor をアップグレードすることができます。

はじめる前に

- <http://www.cisco.com> から Cisco IMC Supervisor のリリース <version> をダウンロードします。
- アップグレードのインストールに使用する FTP または HTTP のサーバにソフトウェアを置きます。
- NFS マウントがアプリケーションストレージに使用されている場合は、パッチを適用する前に NFS マウントを無効にします。そうしなければ、アップグレードは失敗します。
- セキュア シェル (SSH) アプリケーションにアクセスします。
- お使いのシステムに、アップグレードに使用できるディスク容量が 100 GB あることを確認します。

バージョンのアップグレードを開始する前に VM をシャットダウンし、100 GB サイズのセカンダリ ハードディスクを追加します。システムを再起動し、リリース 2.2 へのアップグレードに使用するユーザ インターフェイスを待ちます。



- (注) アップグレードを開始する前に、VM のスナップショットを取得しておくことをお勧めします。これを取得する場合、FTP サーバから既存の設定データベースをバックアップする必要はありません。

手順

- ステップ 1** SSH アプリケーションを開き、Cisco IMC Supervisor アプライアンスの IP アドレスとポート番号を入力します。
- ステップ 2** クレデンシャルで Cisco IMC Supervisor にログインします。
- ステップ 3** Cisco IMC Supervisor シェル メニューから、[17) Apply Patch] を選択します。
- ステップ 4** プロンプトが表示され、すべてのサービスを停止してもよいか、また、データベースのバックアップを取ることができるか確認するように求められます。y を入力し、両方のアクションを確認します。
- ステップ 5** プロンプトが表示されたら、データベースのバックアップについては、FTP サーバの IP、ログイン クレデンシャル、および FTP サーバのサーバパスを入力します。
- ステップ 6** プロンプトが表示されたら、パッチの場所を入力します。たとえば、<transfer protocol type>: // username : password @ hostname | IP_address / software_location_and_name と入力します。

サポートされる転送プロトコルのタイプは、HTTP およびローカル ファイル システムです。次の例を使用できます。

- HTTP : `http://test.cisco.com/downloads/<filename.zip>`
- ローカル ファイル システム : `file:///opt/infra/uploads/<filename.zip>`

- ステップ 7** ダウンロードとインストールが完了するまで待ちます。
- (注) データベースとサービスが再起動されます。Cisco IMC Supervisor サービスが開始し、Cisco IMC Supervisor が使用可能になり、ログイン画面が表示されて管理ユーザが Cisco IMC Supervisor にログインできるようになるまでは、アップグレードプロセスは完了または成功しません。追加パッチの適用、データベースのバックアップ、バックアップからのデータベースの復元など、すべてのサービスは他の shelladmin プロシージャを実行する前に開始されている必要があります。
- ステップ 8** アップグレードが完了したら、shelladmin で [11) Show Version] を選択して、Cisco IMC Supervisor の現行バージョンを確認します。
- (注)
- サービスの状態を表示するには、[2) Display Services Status] を選択します。
 - Cisco IMC Supervisor をアップグレードしてポリシーまたはプロファイルを適用すると、使用可能なサーバで既存のラック アカウントのリストを表示できなくなります。パッチアップグレードが完了したら、[Administration-] > [System] > [System Tasks] > [Rack Server Tasks] に移動し、[Group Rack Server Inventory Task] を選択し、[Run Now] をクリックします。
-

